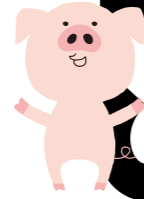


「ステンレスすのこ」を通じて出会った
 養豚家の、豚や畜産、食への想い。
 東の空に日がのぼり、西の山に沈んでゆく。
 その繰り返しの中に宿る、
 かけがえのない日々を記録しました。

ステンレスすのこ
 JOURNAL

vol. 3



SPECIAL ORDINARY DAYS



特許
 取得!

特許第7495754号

養豚経営を向上させる

ステンレスすのこ

STAINLESS "SUNOKO"

高性能ステンレスによって、耐久性が高く、
 超軽量の全く新しい「ステンレスすのこ」を開発しました!

製品
 の
 仕様

超軽量

コンクリートの8分の1

1,800mm×360mmの場合
 コンクリート85kgに対して、ステンレスすのこは10kg

強度抜群

1トン以上の荷重もOK!

耐用年数は20年以上を想定

- ✓ 高性能ステンレス使用
- ✓ すのこ1枚は横板4本で構成
- ✓ 溝面積が全体の30%あり、糞尿落下がスムーズ
- ✓ すのこ側面と底面に糞尿が付着しない構造
- ✓ 簡単な洗浄作業で、表面にも糞尿が残らない
- ✓ 板面にエンボス加工(凸凹加工)を施しており、豚や人が滑りにくい
- ✓ 隣接するすのこ同士が連結する仕組みで、豚がすのこをひっくり返せない

オーダーメイドで製造

TYPE A	[W]1,500mm×[D]360mm [H]70mm / [溝D]25mm [重さ]約8kg
TYPE B	[W]2,000mm×[D]400mm [H]80mm / [溝D]25mm [重さ]約12kg
TYPE C	[W]1,200mm×[D]315mm [H]50mm / [溝D]15mm [重さ]約6kg

長さ、巾、高さ、横板巾、溝巾を
 1mm単位で調整可能です。

※長さは、2,400mmまで

お気軽に
 お問い合わせ
 ください!



INFORMATION

☎ 0834-32-5581 【受付時間】
9:00～17:00(土日祝除く)

✉ sunoko@taika.co.jp



有限会社 藤崎農場



Stainless switching Consultation
 太華工業株式会社

製造・開発



畜産器材専門メーカー
 株式会社 ユーチカ

〒781-6402 高知県安芸郡奈半利町乙448-7

販売代理店



Stainless switching Consultation
 太華工業株式会社

〒745-0072 山口県周南市弥生町2丁目18番地

〈公式ホームページ〉





九十九里の地で紡ぐ養豚経営

有限会社

藤崎農場

藤崎農場の「ステンレスすのこ」の様子はYoutubeにて!



千葉県山武市。九十九里平野の東端に位置するこの地域では、大空を成田空港に発着する旅客機が絶え間なく行き交っている。この地で半世紀以上にわたり養豚に向き合い続けてきたのが藤崎農場である。

代表取締役の藤崎仁道さんを中心に、父・博道相談役、弟・寿道専務が三位一体となり、藤崎農場を支えている。家族で紡いできた半世紀の歩みと、これからの挑戦について話を伺った。

創業者・相談役が語る

ゼロからの出発と「環境」への確信

私の養豚は、10代の頃に庭先に作った質素な木造の囲いから始まりました。当初は経験不足から思うような成績が出せず、過酷な現実に直面しましたが、その苦い教訓が「徹底した衛生管理こそ経営の核である」という気づきを与えてくれました。

ステンレスすのこが変える養豚現場

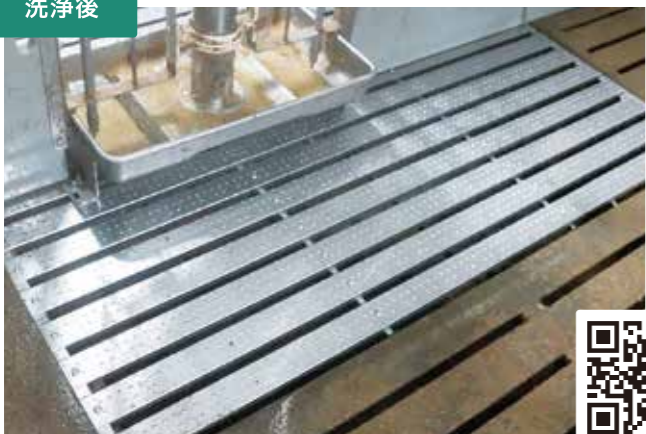
給餌器周りのステンレスすのこは、私が以前から、密かに温めてきた構想でした。最大の狙いは、過酷な洗浄作業の劇的な省力化です。表面が滑らかなステンレスすのこは驚くほど汚れの落ちが良く、高圧洗浄水をざつと当てるだけで付着物を一掃できます。短時間で高い衛生状態に回復できるステンレスすのこは、現場の環境を根本から変えてくれました。

洗浄前



▲オールアウトしたばかりの給餌器の様子

洗浄後



▲高圧洗浄水で洗い流した給餌器周り

▲洗浄作業の様子

「環境が成績を変える」と確信しからは、オールイン・オールアウト方式の導入やウインドレス豚舎の建設など、事業を着実に拡大させてきました。

失敗を糧に、次代へ託す経営

道のりは決して順風満帆ではなく、換気不足や農場の分散といった

懸念していた滑りやすさによるトラブルも、表面加工の工夫によって起きていません。現場から不満の声が上がらないこと、つまり「当たり前」前に、安全に使い続けられることこそが、実は最大のメリットだと感じています。確かに初期コストは低くありません。しかし、数年おきに発生してしまうコンクリートすのこの交換費用や日々の労働力を長期的なスパンで算出すれば、数年で回収することができると考えています。いずれはこれが次世代の養豚経営におけるスタンダードになると感じています。

課題に幾度もぶつかりました。しかし、それら一つひとつと向き合い改善を重ねてきた日々こそが、農場を成長させる不可欠なプロセスだったのです。

経営は一代で完結するものではありません。私の代で経験した失敗や苦勞をすべて血肉とし、より洗練された形を次世代へ託すこと。その継続の先にこそ、藤崎農場の真の姿があると考えています。



▲創業者・相談役の藤崎博道さん

数字と品質の最適解

相談役である父からバトンを受け継ぎ、私がまず取り組んだのは生産

5%の差別化が生む養豚経営

養豚において、私が最も重視しているのは風の流れです。この山武の地で野菜が豊かに育つと同様、畜産にとっても風は生命線。弊社のウインドレス豚舎でも、この恩恵を存分に引き出す設計を採用しています。立地という自然の利を最大限に活かすことが、生産性の格差を生むからです。

先代の時代は個人の経験と勘が経営を支えていましたが、現代の養豚は、データに基づき手法を正確に実行する95%の標準が決まります。残りの5%でいかに差別化を図るか。私にとって、ステンレスすのこの導入も、差別化の一環です。

次代に誇れる農場へ

将来的には母豚を2倍近くへ拡大することを掲げ、労働環境の改善を最優先に掲げています。その要となるのが、ステンレスすのこです。これにより豚舎を衛生的に保ち、最小限の手間で「きれい」を維持できる体制を整えました。父が築いた土

性の再定義でした。かつて最大430頭いた母豚は、現在350頭程度まで絞り込み、母豚一頭あたりの生産性を高めることで、出荷効率も売上も以前を上回る数字を安定して出せるようになりました。品種選定も試行錯誤を重ね、現在はストレスに強く飼いやすい豚に辿り着いています。



▲代表取締役の藤崎仁道さん

台に、最新設備と信頼できる仲間力を掛け合わせ、次世代に誇れる農場を目指していきます。

95%の標準と家族の絆で、次代の養豚を切り拓く

95%の標準と5%の差別化を信念に、合理的な養豚を追求する藤崎社長。先代から受け継いだ土台にデータと最新設備を掛け合わせ、農場をさらなる高みへと導こうとしています。家族三位一体で歩むその姿勢と、現場の負担を減らすための合理的な決断力。その一つひとつの想いが、次世代へ繋ぐ「誇れる農場」の未来を、力強く支えていくに違いありません。

▲専務の寿道さん

